

【 無料ダウンロード資料 】

社労士試験の勉強法

完璧主義を捨てる「7割理解」の高速回転術&テキストと過去問の勉強割合

※約5分で読めます

社労士試験の勉強を始めると、その膨大な試験範囲に圧倒され、こんなの全部覚えられないわげがない…と思うかもしれません。

でも安心してください。

社労士試験は「**完璧**」を目指す試験ではありません。

本レポートでは、完璧主義を捨てて、7割の理解で確実に合格ラインを超える勉強法と、そのために必要な教材の選び方をお伝えします。

半年での合格は可能？「1,000 時間」の真実

まず、大前提をお伝えします。

働きながら「半年で合格」を目指すのは、非常に困難です。

合格には最低でも「**1,000時間（理想は1,500時間）**」の学習が必要です。

半年で達成しようとする、毎日5～6時間以上削る必要があり、現実的ではありません。

【結論】

勉強スケジュールは「**1年**」を見据えて計画を立ててください。

平日2～3時間、休日3～5時間をコツコツ積み上げることが、遠回りに見えて一番の近道になります。

完璧主義を捨てる「7割理解」の高速回転術

真面目な人ほど、テキストの1ページ目からすべてを理解して暗記しようと立ち止まってしまいます。

しかし、これが最大の罠です。

社労士試験の勉強は「質より量（回転数を増やす）」です。

1 わからない箇所は飛ばす！

初期の学習で理解できないのは当然です。立ち止まらずに、どんどん次に進めて教材を1周させましょう。

2 「7割」わかればOK

完璧を求めず、まずは全体像を「7割理解」するつもりで、何度も何度も繰り返す（回転させる）ことが記憶定着の鍵です。

科目別「テキスト&過去問」の勉強割合

「テキストを読む」インプットと、「過去問を解く」アウトプット。

このバランスを間違えると、いつまで経っても点数は伸びません。

私の経験から導き出した、科目別の最適な「勉強割合」がこちらです。

科目名	テキスト（読む）	過去問（解く）
労働基準法	3割	7割
労働安全衛生法	2割	8割
雇用保険法	5割	5割
国民年金法	6割	4割
厚生年金保険法	4割	6割

【ポイント】

年金科目など「仕組みの理解」が必要なものはテキストの比重を高め、それ以外は徹底的に「過去問（アウトプット）」を中心に回すのが合格への鉄則です。

独学者必見！私が選んだ教材と活用法

独学の場合、教材選びが合否を直結します。

私が使った教材で、最終的に合格を掴み取ったのが「LEC（出る順シリーズ）」です。

1 テキストがわかりやすい

初学者でも理解しやすい図解が豊富です。

2 過去問とのリンクが完璧

テキストと過去問が連動しており、反復学習（高速回転）が非常にスムーズに行えます。

【過去問サイトの活用】

さらに、出題形式の変化や過去の傾向を掴むために、「[社会保険労務士 本試験 資料館](#)」というサイトで、過去何十年分もの過去問 PDF をチェックすることも強くおすすめします。

まとめ

完璧を目指さず、テキストと過去問を信じて「**7割の理解**」で**高速回転させること**。

これが社労士試験を突破する秘訣です。

そして、[高速回転で学習できるのが資格の大原「社労士24」](#)です。

下記の記事で、**社労士24の自動スケジュール作成機能**など、メリットを解説しています。

きっと、参考になるのでご覧ください。



参考記事はこちら

クリック→ [【1年勉強プラン自動化】社労士24
学習スケジュール作成機能](#)

しゃろうむ